

8月のデキゴト

8月18日(日)開催 第5回いずみ自然塾「夏の高麗川の魚」

はじめに

2024年8月18日、今日は高麗川の魚とりの予定でしたが、台風7号の影響で残念ながら川には入れず、いずみでの座学になりました。

講師は(株)環境総合研究所の長崎薫氏、麻布大学でタヌキなどの研究をされ、同社に入社後、動植物調査を担当、観察会、写真撮影、保全育成なども手掛けられています。

今日は、高麗川の魚、特に環境学館いずみ付近で見られる魚を教えてくださいました。

以下に、講座の内容と受講して高麗川について感じたことを記載します。

1. 講座の内容

(1)高麗川とは

高麗川は、越辺川の支流で、飯能市、日高市、毛呂山町、坂戸市を流れ、坂戸市で越辺川に合流する。湧水が流れ込むのが特徴の川である。

いずみのある坂戸市では河川の中流～下流に生息する魚が主に見られる。浅いところが多く子供でも魚とりができる。

(2)いずみ付近で見られる魚

① コイ

岸際やワンドにいる。野生と移入種がいて、野生種は体高が低い。高麗川ではほぼ移入種になっている。

※ワンド：川の本流とつながっているが、池のようになっている地形をいう。

② オイカワ

元々は高麗川に最も多い魚であり、ヤマベとも言う。オスは婚姻色がきれい。

③ カワムツ

今では高麗川に最も多い種になっているかもしれない。本来は西日本にいた魚でアユの放流等に交じって移入された。暗いところにカワムツ、明るいところにオイカワがいる。オイカワとの交雑も起きている。カワムツは腹の黒い線とヒレが黄色っぽい点で見分ける。



昨年、魚取りをした北坂戸橋付近の高麗川



オイカワ

④ モツゴ

クチボソとも言う。流れの緩やかなところにいる。口が細くて、上を向いているのが特徴である。

⑤ タモロコ

モツゴと一緒にいる。ヒゲがあることで区別できる。

⑥ カマカツ属

3種がいて区別が難しい。関東は一般にはスナゴカマツカだが、移入種もいる。砂地にいるので、あまり捕れない。

⑦ ニゴイ

砂泥質の岸際やワンドにいる。投網で採れることがある。おいしい魚で、かつてはヒラメの代用魚であったという話もある。

⑧ ドジョウ

砂泥質の岸際やワンドにいる。外来種が増えている。カラドジョウは背びれから尾びれにかけて幕がある。

⑨ ヒガシシマドジョウ

砂礫質の場所、岸際でたも網で捕れる。体側に丸い黒斑がある。

⑩ ナマズ

やや深い岸際やワンドにいる。ひげが長いのが特徴、他の魚を捕食する。

⑪ ミナミメダカ

流れの緩やかな岸際やワンドで群れている。3面コンクリート水路では生きられないこと、田んぼがなくなったこと、ヒメダカとの交雑もあり、国の絶滅危惧Ⅱ類になってしまった。

⑫ カジカ

やや深めの流心部にある浮石や流木の下にいる。国の絶滅危惧Ⅱ類、本来、高麗川の上流の水のきれいな礫が多いところにいる魚だが、西部漁協でも放流している。

⑬ ムサシノジュズカケハゼ

高麗川を代表する魚、湧き水で繁殖する。ハゼなので腹のヒレが吸盤になっている。

⑭ その他の魚

ギンブナ、アブラハヤ（ぬるっとした体）、ギバチ（水がきれいなところに棲む）、トウヨシノボリ類（ハゼの仲間、国内外来種）、カムルチー（ライギョ、外来種）、コクチバス（特定外来生物、色んな環境に適応しているので上流に入っている、食べて駆除したい）。



(3) 魚を食べると言うこと

保全する意味から食べない方がよいという意見もある。しかし、本来、埼玉では海がないので川魚を食べてきた。その文化を残すこと、また生物多様性の観点からもバランスを保つためには食べるのが大事である。

(4) 質疑

① ジュズカケハゼがなぜ高麗川を代表する魚なのか

高麗川は湧水が入る川であることが特徴であり、その湧水がないと生きられない魚である。また高麗川では簡単にたも網で捕れるほどいるが、国の絶滅危惧種になっていることから、代表と言ってよい魚と考える。

② 高麗川に魚道はあるのか

高麗川には堰が多いが、ほぼ魚道は設置されている。

③ 越辺川と高麗川では魚の種類が異なるのか

大きくは違わないが、越辺川の方が外来種は多いように思われる。

④ ウナギはいるか

いると思われるが、最近の確認できていない。

⑤ アユはいるのか

いずみ付近では確認できていないが、放流もされており、高麗川にもアユはいる。

⑥ カムルチー（ライギョ）が昨年捕れたが普通にいるのか

多くはないがいる。

⑦ 昔はヌカエビがいたが今では

今では、ほぼいない。外来種のカワリヌマエビが入ったことで駆逐された。カワリヌマエビはたくさんいる。

⑧ スジエビはいるか

いる。スジエビはカワリヌマエビより一回り大きなテナガエビの仲間で、居酒屋で出る川エビである。

⑨ ホトケドジョウはいるか

埼玉県県の絶滅危惧ⅠA に区分される絶滅に瀕している種、湧水にいる魚なので、湧水があるところでは人が改変や、農薬等の影響を免れたところに生き残っている。守秘義務があるので、詳細は言えない。

2. 講座を終えて

最近の魚の講座では、川に入れない場合には中止としていたが、しっかりと魚のことを聞く機会がなかったので講師にお願いして実現した講座であり、アンケートでも評判がよかったです。

講師は実際に埼玉を調査フィールドにしている方なので高麗川、特にいずみ付近にどんな魚が多いのか、ジュズカケハゼが代表的な魚で、湧水があるのが特徴であることを知ることができて有意義であったと思います。

講座後の反省会で外来種の問題が話題となりました。こ



の講座も 10 年以上続けていると外来種の影響が如実に分かってきます。最近では釣り人によって放流されたコクチバスが上流まで上がってくるので気になっていますが、悠然と泳ぐコイも以前に放流されたもので、他の魚の卵を食べるのではと心配されています。ヌカエビは私たちがもっとも身近で絶滅を目にしたエビであり、アユと共に持ち込まれたカワムツがこんなに幅をきかせ、以前いたウグイもいなくなりました。魚は日本列島が出来上がる過程の中で流域ができ、そこで子孫を繁栄してきた種です。この何十年の間に、人がその生態系を狂わせたことはだれもが否定しない事実です。生態系の保全は身近な問題であり、私たちが意識しないと生きものは簡単に絶滅するのだと再確認できた講座となりました。

記 環境学館いずみ運営ボランティア Y.I